

令和5年
第11回定例会議事録

令和5年11月15日

泉大津市教育委員会

令和5年11月15日(水)午前10時より令和5年第11回泉大津市教育委員会会議定例会を泉大津市役所3階301会議室に招集した。

出席委員

教育長	竹内 悟
教育長職務代理者	澤田 久子
教育委員	西尾 剛
教育委員	池島 明子
教育委員	奥 健一郎

出席事務局職員

教育部長	丸山 理佳
教育部次長兼教育政策統括監	鍋谷 芳比古
教育部教育政策課長	大塚 和弘
教育部指導課長	藤谷 考志
教育部生涯学習課長	中山 裕司
教育部スポーツ青少年課長	大和 宏行
健康こども部参事兼こども育成課長	里見 崇
教育部教育政策課長補佐	中塘 健
教育部指導課長補佐	松葉 康孝
スポーツ青少年課	西野 翔太
教育部生涯学習課	山内 望里
教育部教育政策課	三上 達朗
教育部教育政策課	友永 彩絵

案件

- 日程第 1 報告第 2 1 号 泉大津市学びのキャンパス創設事業について
- 日程第 2 報告第 2 2 号 泉大津市教育委員会の後援名義使用について
- 日程第 3 議案第 3 4 号 令和5年度泉大津市一般会計補正予算について
- 日程第 4 議案第 3 5 号 泉大津市立学校園条例の一部改正について
- 日程第 5 議案第 3 6 号 財産の無償譲渡の件について

議事録署名委員

教育委員 西尾 剛

会議の顛末

○竹内教育長 令和5年第11回教育委員会会議定例会の開会宣言

○令和5年第10回教育委員会会議定例会議事録承認

△日程第1 報告第21号 泉大津市学びのキャンパス創設事業について

◎生涯学習課長（中山裕司）趣旨は、泉大津市教育施設再編計画において、「未来の学びの場」のめざす姿として掲げている泉大津市全域をフィールドとした「学びのキャンパス」を創設していくための事業について報告するものです。

内容は、別紙1をご覧ください。「泉大津市学びのキャンパス創設事業」として、あらゆる世代が学べる環境づくりを行ってまいります。この事業は、令和14年度開設予定の生涯学習センターを拠点とし、各小・中学校の地域交流ゾーンをサテライト機能として活用し、泉大津市全体をフィールドとした「学びのキャンパス」を創設してまいります。学びのキャンパスを創設していくためには、ハード面の整備だけではなく、ソフト面での仕掛けが必要と考えており、生涯学習センターができるまでの間を3つのフェーズに分け、それぞれのフェーズでソフト面の仕掛けを実行していくことで、学びのキャンパスの実現をめざしてまいります。

フェーズ1として、老朽化している社会教育施設で活動している団体が地域交流ゾーンを活用していくように促進してまいります。フェーズ2では、フェーズ1で具体化された地域交流ゾーン活用の課題を整理し、移行しやすい環境を整え、老朽化の進んでいる勤労青少年ホームの早期閉鎖をめざしてまいります。また、生涯学習センターについての基本構想を行ってまいります。フェーズ3では、生涯学習センター開設に向け、設計・工事を行ってまいります。また、順次開設される地域交流ゾーンを活用し、既存団体の移行を進め、南・北公民館の早期閉鎖をめざしてまいります。いずれのフェーズにおいても市民も巻き込みながら、共に事業を進めていくことで市内のあらゆる場所で学べる環境、右下の図のような形になるよう努めてまいります。

特に事業の始まりとなるフェーズ1は大変重要と考えており、具体的に行うこととして、生涯学習課と公民館職員が連携し、令和5年度現在、社会教育団体へのアンケートやヒアリングなどを行っているところです。

令和6年度は地域交流ゾーンへの団体の移行促進をさらに行っていくため、外部委託も活用しながら進めていきたいと考えており、4月早々には地域交流ゾーンの見学会等を行い、実際に使用してもらうモデル事業、モニタリング、課題の抽出などを行い、可能な団体から本格的な移行を進めていきたいと考えております。

このように、早い段階から市民を巻き込む活動場所のスムーズな移行を実現させていくことによって、学びのキャンパス創設事業という形で、右下の図のように生涯学習センターを中心として、学校とも連携した多様な学びの場の形成に努めてまいります。

◆教育長（竹内悟）生涯教育におけるリカレント教育や学校教育の協働的な学びの部分についてもお話いただけますか。

◎生涯学習課長（中山裕司）生涯学習課として、地域交流ゾーンを活用することによって生み出される効果と考えていることですが、まず、大きな枠組みとしまして生涯学習の中に学校教育・社会教育があり、それぞれ様々な学習活動を行っていると考えております。

学校教育におきましては、令和の日本型学校教育のめざす姿として、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図ることを推進しています。一方、社会

教育では、情報化、高齢化など、多様化してくる社会に対応していくために、リカレント教育や学校教育を終えた後も生涯にわたっての学び続けること・学び直しというのが必要であると考えております。

この地域交流ゾーンは学校の施設ですので、当然子どもたちの学びや協働はその中にありますが、そこへ大人の学び、学び直しが入っていくこと、また、大人が学んでいる姿を子どもに見せていくことによって、お互いの刺激になり、その先に大人と子どもによる学び、多世代による協働的な学びが生まれると考えております。地域交流ゾーンに大人が入っていくことによって、子どもも大人も誰もが教え学び合うことができる新たな学びの場になり得ると考えており、学校教育の視点に加え、社会教育・地域の視点の双方を取り入れることによって、学びのキャンパスの実現ができると考えております。

◆教育委員（奥健一郎）素晴らしい事業だと思いますし、プラットフォームとしては非常に説明が十分で、なるほどという感じですが、中身・コンテンツの話で、特に社会教育において、ビジネスでもよくあるのですが、「顧客のために」と「顧客の立場」では意見が違いまして、顧客のためにと考えてやっていることが、実は顧客の立場からすると見当外れということがありますので、泉大津市の学び直しのニーズというのは何か拾っているのでしょうか。こっちが「多分こうだろう」と考えてやっていることが押し付けになっていたらまずいので、ニーズはどんなものがあるのかと思いました。

◎生涯学習課長（中山裕司）先ほども説明させていただきましたが、令和5年度は120団体へのアンケートヒアリングを行っているところでありまして、それを受けて来年度から実際に外部事業者も入れながら、こういった形ができるのかというモデル事業を意見を聞きながら進めていきたいと考えております。

◆教育委員（奥健一郎）わかりました。吸い上げている段階ということで了解です。

◆教育長（竹内悟）今、具体的に少し動き出しているのが市吹（泉大津市吹奏楽団）です。市吹が多目的ルームを使って練習をする。その分、市吹のメンバーが今後3中学校の吹奏楽部の指導に入ってくれる、というような話が徐々に進んでいます。あと、これはまだ事務局内での話ですが、小学校や中学校において、総合や教科横断的な授業において、団体が活動しているお茶やお花で日本の伝統文化を学ぶとか、陶芸も美術と関連して学ぶとか、そういう流れを校長とも話をしています。カリキュラムの問題は全くないのですが、担当の先生方にそういう意識づけを持っていただくようにして、年間カリキュラムも考えてもらわないといけないねという話は校長先生にしています。

◆教育委員（池島明子）素晴らしい事業の計画だと思うのですが、今まであったものや家の近くだったから活動していたようなものがなくなって、これを機会に利用をやめてしまうのが1番良くないのではと思うのですが、市民の施設の利用率が、例えば今は5%だから新しくなったら7%への増加をめざしますとか、そういう目標のようなものがあったら教えていただきたいです。

◎生涯学習課長（中山裕司）新たに学校施設に創設となりますので、その利用状況をどれぐらいの目標にするかということころまでは設定できておりません。来年度にモデル事業を行うにあたり、まずは課題を整理していかないといけないと考えております。学校が優先的に使うというところが第1と考えておりますので、その空きでどれだけ使えるか、また、放課後・休日は使えるということと、学校が運営している時に外から入ってくるのはどうなのかというような問題もあると思いますので、そういったところは今後検討する形で考えています。

◆教育委員（池島明子）数字で見ると、市民の方が理解しやすいのではないかと思います。そういった変更をすることで、「私たちが使いにくくなった」と感じさ

せてしまうのではなく、変更することでさらに充実する、こういったことをめざしています、と言うためには、そういった数字があるとわかりやすいかなと思うので、もしよろしければ検討をお願いいたします。

◎生涯学習課長（中山裕司）ありがとうございます。

◆教育委員（澤田久子）現在も両公民館・勤労青少年ホームは高齢の方のみが使っている、そういう施設になってしまっているの、やっぱり子どもや中学生を巻き込んで、今後はそういう方たちも利用しやすいような学びのキャンパスをめざしていくのかなと思うのですが、若い層、子育て世代も皆さん集まって、というのはなかなか難しいと思います。でも、そういう人たちも巻き込むような、ただ施設を移行するだけではなくて、そこも含めた計画を立てていかないと、今利用している人たちが地域の小学校中学校を利用して、最終的には生涯学習センターという形になっていく、というだけではだめかなと思います。そういう仕掛けをもっと作っていくことをこの中に盛り込んだほうがいいのではないかなと私は思います。

◆教育長（竹内悟）池島委員が言われた、近くだから活動しやすいという話ですが、小津中学校から北公民館までの距離を考えると、小津中学校区は地域交流ゾーンが3校ともできます。だから、距離的には、もし使っていただけるなら意外に近くにはなるのかなと思います。

澤田委員が言われた若い世代って、義務教育に子どもがいる年代ですよ。

◆教育委員（澤田久子）せっかく学校の施設を使うのであれば、親世代が集えるような何かができるのとかがあればもっといいと思う。せっかく学びのキャンパス創生を掲げているのに、活動しているのは高齢者、小学校の子どもとは少し交流はあるけれど。真ん中の世代が全く今抜けてしまっているの、泉大津市として考えるのであれば、若い世代の人たちも巻き込んでいくような学びを考えていかないと、伸びていかないのかなと思います。

◆教育委員（奥健一郎）これは希望ではあるのですが、日本の一番の問題になっていることは言わずもがな少子高齢化ですよ。少子高齢化というのは政策だけで解決できる問題ではなくて、大事なのは少子と高齢がまず交わることです。相互理解。これがないと、少子高齢化の問題を根本的に解決することは難しいので、少子と高齢が交わるような場所、特に子育て世代の若い方と壮年者の方で、例えば子育てのテーマで話す。講師が来ていろいろ喋って質疑応答するというだけでなく、現地現場レベルでの細かい話とか、「私たちはこうしたよ」という話。ひょっとしたら、そこから「私たちが面倒見ましょうか」とかいう感じになって、親御さんたちが忙しい時にお年寄りの方が子どもの面倒を見たりとか、そういった本当の意味での地域連携が可能になってくるところも出てくると思います。とにかく少子と高齢が交わるというような場所が現地現場レベルであった方が非常にいいかなという気はします。実際それでうまくいっているところもあるみたいです。

◆教育長（竹内悟）ちょっと観点が違いますけど、誠風カフェは地域の人が入って子どもとずっと関わってくれているので、簡単に説明してもらっていいですか。

◎指導課長（藤谷考志）誠風中学校において、コミュニティ・スクールの一環で地域学校協働活動として、みらい応援隊の方が学校の中に誠風カフェという地域の人と交流するような部屋を設けていまして、そこで子どもたちが、学校の先生には話せないような話を地域の人に話したり、心を安定させて教室に戻っていったり、一緒に簡単な卓球みたいなもので体を動かしたり、地域の方との交流で心の安定を図るような活動をしてもらっています。地域交流ゾーンの使い方の1つかなと思います。

- ◆教育委員（奥健一郎）わかりました。ありがとうございます。
- ◎教育部長（丸山理佳）私も見せてもらいましたが、堅苦しくなく、本当に子どもたちが何人も来ていて、教室に戻りたくないぐらい地域の人とお話されているような雰囲気でした。この取組みは、大阪府のホームページで事例として取り上げていただいております。
- ◆教育長（竹内悟）校長先生にもよりますが、国は簡単に「地域とともに」と言うのですが、なかなかこれが難しい。実際に人間関係が希薄になっていて、泉大津の場合は辛うじて祭りで繋がっているようなところだけがクローズアップされている。それ以外の部分の繋がりというのは、コロナをきっかけに働き方改革がドンと前に出てしまっていて、僕自身はこれで本当にいいのかなと思っていますが、家庭訪問がなくなったり保護者の選択制になったりしている学校があります。教員がアンテナを張りめぐらせていても、その家を見ないと分からないことはいっぱいあります。そこがなんだか、もやもやとしている部分があって。学びのキャンパスということで生涯学習課長が説明してくれたのですが、その場が何かいろんなアンテナの張れる場所になったら、救える子どももいるんじゃないかなとか、とにかく様々な関わりを作っていかないと今の子どもは救えないと思っています。
- ◆教育委員（奥健一郎）そこが実は本当に言いたかったところで、現状を覆して前に戻すという労力をかけたらすごく大変なので、こういう戦法でいった方が楽じゃないかなと思います。家庭教育もそうですよね。家庭教育だって大事だ大事だと言っているてもできないですよ。縦横無尽にこれを使った方が早いかもしれないです。
- ◆教育長（竹内悟）生活指導担当と話していたのですが、今の先生や役所の人は、市民や悩んでいる保護者に対して、「どうしますか」と言うんですよね。選択は自分で責任を負ってくださいという意味で。先生もそう言うのですが、親にしたら、何がいいかわからないから行動が鈍くなってしまう。その家庭を分かっている先生が、「こっちの方がいいよ」と言ってあげるアドバイスが今ないんです。その方向性を示してあげられる人間関係が希薄なんです、ものすごく。だから、澤田委員も言われましたが、すべての世代が集まって少ない人数の子どもを見ていかないといけないのですが、それがすごく難しいところです。この計画を表に出したら、どうしても「お年寄りが使っているところをなくすのか」という議論になるのですが、根本はそこではなくて、「どの世代も人数が少なくなっている子どもと関わってほしい」という部分を理解してもらえたらいいのですが、なかなかそこを理解してもらえないというのが事実です。
- ◆教育委員（奥健一郎）「どうしますか」というのは、企業のセールスマンだったらアウトですよ。
- ◆教育長（竹内悟）いろいろ説明はするんですよ。ですが、最後に決めるのは家庭だからどうしてもそうになってしまう。例えば、進路を決定する時に中学校の先生が保護者と本人を前にして、進路の相談をします。今の時期ずっとしていますよね。専願であればここに行けそうですよ、併願だったらここですよ、と説明します。でも最後は、「どうしますか」とやっぱり聞きます。自分の意思を持って、落ちるとしても、この高校に行きたいから受験するんだ、と思って回答をしている家庭もあれば、どうすればいいかわからない、となってしまう保護者もいるので、その辺りを見極めて話をしないといけないのですが、なかなか難しいです。

※報告第21号終結

△日程第 2 報告第 2 2 号 泉大津市教育委員会の後援名義使用について

◎教育政策課長（大塚和弘）趣旨は、泉大津市教育委員会の後援等に関する要綱に基づき、後援を承認したので報告するものです。

報告対象期間は、令和 5 年 10 月 1 日から令和 5 年 10 月 31 日までです。

内容は別紙 2 をご確認ください。申請件数は 8 件で全件を承認しております。番号 4 については新規事業で、事業要件として、本市地場産業の体験活動等を通じて行うもの、目的及び内容が、教育、学術、文化及びスポーツの振興に寄与するものであると認められ、シーパspark内で行うことから、広く市民が参加できるもの、かつ、過去の事業実績から主催者に事務遂行能力が認められると判断し承認したものです。番号 6 については、新規団体・新規事業で、団体要件として、大阪府が実施する大阪府商店街等モデル創出普及事業に参加しており、地域交流イベント等を実施して地域貢献に寄与していること、事業要件として、市内中学校吹奏楽の演奏や本市独自の REIWA 盆ダンス等で構成するイベントによる地域コミュニティの構築をめざすもの、目的及び内容が、教育、学術、文化及びスポーツの振興に寄与するものであると認められ、市内商店街で実施することから広く市民が参加できるもの、かつ、過去に同事業が大阪府により商店街と周辺エリアの魅力を伝える取組みとして事例紹介されていることから、主催者に事業遂行能力が認められると判断し承認したものです。番号 8 については、新規事業で、事業要件として、地域の親子が高齢者世代と、ものづくりで交流ができる場の創出、目的と内容が、教育、学術、文化及びスポーツの振興に寄与するものであると認められ、市内商店街で実施されることから広く市民が参加できるもの、かつ、過去の事業実績から主催者には事業遂行能力が認められると判断し承認したものでございます。

◆教育委員（澤田久子）1 番の、以前からも後援をしているということですが、大阪友の会はどういった団体ですか。

◎教育政策課政策総務係長（三上達朗）団体から提出された概要によると、全国友の会が、日本初の女性ジャーナリストであり教育者の方が創刊された雑誌の愛読者によって設立された団体で、そのうち大阪府下で活動しているのが大阪友の会とのことです。設立は 96 周年を迎える歴史の長い団体となっています。

◆教育委員（澤田久子）件名に「暮らしと家計の講習会」とありますが、保護者が参加するという感じでしょうか。なぜ教育委員会への申請があったのかなと思ったのですが。

◎教育政策課（大塚和弘）衣食住、家計、環境、子どものこと等、幅広く学び合っ家庭生活をより良くすることで社会を良くしていこうという趣旨の団体でございまして、社会教育も含めた視点ということで承認いたしました。

◆教育委員（奥健一郎）申請団体の「大阪友の会和泉方面」は、こういう固有名詞ですか。

◎教育政策課（大塚和弘）そうです。主催者と申請団体としてこの名称となっております。「全国友の会」の中の近畿部に属するのが「大阪友の会」という名称で、その中の和泉方面ということだと思います。

◆教育委員（西尾剛）友の会は、昭和の昔から聞いたことがあるように思います。

◎教育政策課（大塚和弘）1927 年に創立となっております。

◆教育委員（奥健一郎）ただ、教育委員会として承認となると、今後考慮しなきゃいけないですね。

◎教育政策課（大塚和弘）防災クッキングなど、そういったものも含んでいますの

- で、社会教育の一環と考えております。
- ◆教育委員（奥健一郎）多言語フォーラムというのも教育ですか。
 - ◎教育政策課（大塚和弘）はい、そうです。
 - ◆教育委員（奥健一郎）言語交流研究所のためのフォーラムは教育ですか。
 - ◆教育長（竹内悟）これもずっと毎年後援していますよね。
 - ◎教育政策課（大塚和弘）ずっとヒッポさんは課題になっていますよね。
 - ◆教育委員（西尾剛）多言語フォーラムというのは、具体的に何をやるのですか。
 - ◎教育政策課（大塚和弘）言葉を歌う、体験報告、多言語の劇といった内容です。
 - ◆教育委員（澤田久子）ここはいつもいろんな言語でやっているんですよ、日本語だけじゃなくて。
 - ◆教育長（竹内悟）多文化理解ですね。
 - ◆教育委員（奥健一郎）多文化理解、なるほど、わかりました。でも、許可の一線はある程度概念的に持っていたほうがいいかもしれませんね。
 - ◆教育委員（西尾剛）儲けに繋がる、かつ、ちょっと偏った教え方、考えでなければ承認ということですかね。
 - ◆教育委員（奥健一郎）あともう1つは、今後、なぜあの団体が承認されるのに、うちの団体は承認されないんだというクレームが来るかもしれないですよ。
 - ◆教育長（竹内悟）それは前回、きちんと課長が整理してくれましたよね。
 - ◎教育政策課（大塚和弘）資料としてお示しさせていただいたチェックリストであったり、要綱に基づいて条件を満たしているかというところで判断しております。
 - ◆教育長（竹内悟）北助松商店街が頑張っていますね。
 - ◎教育政策課（大塚和弘）今回2件ほど事業としてあがっています。

※報告第22号終結

- ◆教育長（竹内悟）次の議案の審議にあたっては、泉大津市教育委員会会議規則第34条で規定する「人事に関する事件その他の事件について、教育長又は委員の発議により、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは、これを公開しないことができる。」と定められています。
- については、日程第3から日程第5を非公開とすることに異議はございませんか。

《異議なし》

異議がないようなので、日程第3から日程第5は非公開とします。

午前10時55分終了

議事録署名委員

教 育 長

教 育 委 員